

# 第4章 豊かな自然環境と快適な生活環境の確保

## 第1節 豊かな自然環境の保全とふれあいの確保

人間の生存基盤である環境は、豊かな生物多様性と自然の物質循環を基盤とする生態系が健全に維持されることで成立しています。また、生物多様性は、人間にとって有用な価値を持つとともに、快適な生活・豊かな文化を育む根源です。本市の豊かな自然や自然の大切さを市民一人ひとりが認識し、生物多様性の意義、価値に対する理解を深めるため、自然とのふれあいの場の創出を推進します。また、都市の機能と自然の機能が相方ともに発揮されるような都市と自然が共生するまちづくりを進めていきます。

### 1. 自然環境の現況

#### (1) 地形

本市は九州の最北端に位置し、関門海峡をはさんで本州と相対しています。その広さは東西約33km、南北34km、面積は約485km<sup>2</sup>で、福岡県の約10%を占めています。本市の大部分は、東部の企救山塊と中央部から南に延びる福智山塊などによって占められています。平野部は分離散在しており、臨海部低地には自然生成地は少なく、埋立地等の人工造成地が大半を占めています。

#### (2) 気象

本市は、瀬戸内海（周防灘）と日本海（響灘）に面して、その気候は瀬戸内海気候と日本海気候の中間的な傾向を示しています。年平均気温15℃程度、年間降水量1,800mm程度で地域により風向も異なりますが、一般的に冬季は西系の風が強く、春季から秋季にかけては南系の風が多く、夏は晴天も多いが湿度が高く蒸し暑い日が多くなります。

#### (3) 現況特性

##### ア. 植物と自然度

本市の植生はヤブツバキクラスの常緑広葉樹林に属し、自然植生はスダジイ群落、タブノキ群落、平尾台周辺のススキやネザサ群落、曾根など塩生植物群落が代表的です。照葉樹、広葉樹の自然林などはサンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、シジュウカラなどの野鳥の生息地となっています。

##### イ. 陸水域生態系の概況

本市には、一級河川の遠賀川を含む261河川が流れています。貯水池は、紫川水系のます淵ダム、道原貯水池等のほか約540の農業用ため池があります。公共水域の水質は、水質汚濁防止法による規制や公共下水道の整備に伴い、著しく改善されました。

本市は淡水魚類相が大都市圏としては比較的豊富で、鳥類相もかつては大きなダメージをうけていましたが、現在では数多く観察されています。

#### ウ. 沿岸域生態系の概況

本市は周防灘、関門海峡、洞海湾、響灘に面していますが、海岸線の多くは、埋立地や港湾として整備され、企業の生産活動の場や港湾物流の場として利用されています。沿岸域水域の水質は、水質汚濁防止法による規制や公共下水道の整備に伴い、改善されました。代表的な沿岸域である曾根干潟では、シバナなどの塩沼地性植物やズグロカモメなどの野鳥およびカブトガニなどが生育しています。

### 2. 重要種の確認

本市が保有する1968年からの自然環境関連資料、国、県が発行している自然環境情報（レッドデータブック等）、北九州市立自然史博物館等の各機関発行の情報等を中心に、本市に生息・生育する貴重生物種に関する127冊の文献データの収集・整理を行ったうえで、市民・市民団体、専門家に対する生息確認等のアンケート調査、さらに現地補足調査を行いデータの更新を図りました。

このデータから平成3年以降の情報を抽出したものが次の結果です。

分類	和名	種数
維管束植物	アギナシ、オキナグサ等	29
藻類	オトメフラスコモ、シャジクモ	2
ほ乳類	カヤネズミ、ニホンアナグマ等	5
鳥類	クロツラヘラサギ、ハヤブサ等	47
は虫類	アカウミガメ、タカチホヘビ等	6
両性類	カスミサンショウウオ、ニホンヒキガエル等	7
淡水魚類	イシドジョウ、カゼトゲタナゴ等	21
昆虫類	アサカミキリ、クモガタヒョウモン等	10
甲殻・貝類等	シオマネキ、ナカヤママイマイ等	55
計		182

### 3. 「北九州市野鳥観察施設整備方針」の策定と実施

本市では、「人と野鳥が共存する環境づくり」を目的として、平成12年2月に「北九州市野鳥観察施設整備方針」を策定しました。本方針では、市内17ヶ所を野鳥観察の

場として選定し、野鳥生息状況や敷地条件に応じて整備レベルをバード・サンクチュアリ（2ヶ所）、野鳥観察場（9ヶ所）、野鳥ふれあいの場（6ヶ所）の3段階に区分して、それぞれの場で自然環境に配慮した整備を進めています。

※バード・サンクチュアリとは、狭義には、「鳥獣のための確保された場所」という意味を持ち、ここでは野鳥など野生生物とのふれあい・自然観察・学習拠点を示している。

### 4. 「曾根干潟保全・利用計画」の策定と実施

本市では、平成11年3月に「曾根干潟保全・利用計画」を策定し、「自然環境と人間活動の共生」を理念として、曾根干潟の環境に配慮しながら干潟を利用することとしました。また、干潟の保全及び状況の把握のため、平成7年度より曾根干潟の環境調査を実施しており、鳥類については四季を通じての調査を継続して行っています。

今後も、本計画に基づき、曾根干潟の環境の保全に努めるとともに、利用においては、干潟環境への配慮を求めています。

### 5. 北九州市自然環境保全基本計画

#### (1) 背景

これまで本市における自然環境保全施策は、平成8年3月策定の「アジェンダ21北九州」と平成13年1月に施行された「北九州市環境基本条例」を根拠に推進してきましたが、具体的な施策については、関係する部局が個別に、しかもそれぞれの立場で樹立した長期計画に基づき実施しているところです。

これらの施策を総合的、かつ、計画的に推進するために、また、新たな課題に対応するため、本市では平成17年9月に「北九州市自然環境保全基本計画」を策定しました。

#### (2) 計画の特徴

- ・市民・NPOと一緒に作り上げ、進めて行く計画。
- ・都市政策、産業政策、農業政策等の考え方を組み合わせた総合的な計画。
- ・自然環境全般に関する基本計画の策定は政令市では初。
- ・環境首都グランド・デザイン環境行動原則4「自然と賢くつきあい、守り、育みます」の具体化。

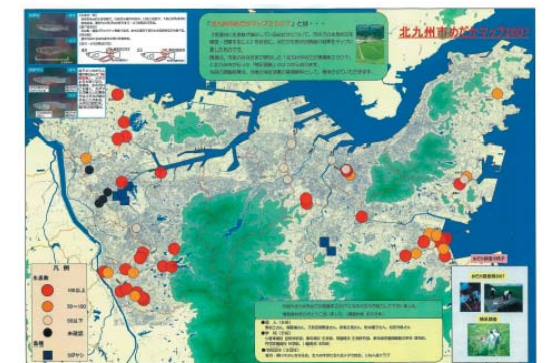
同計画の基本理念は「都市と自然との共生～「都市のなかの自然、自然のなかの都市」の実現を目指して～」であり、この基本理念を実現するための、次の5つの目標が設定されています。更に、これらの目標を達成すべく、5つのリーディングプロジェクトを掲げ、現在、これらのリーディングプロジェクトを中心に様々な取組（関係各課

が実施する59の施策）が実施されています。

目標	プロジェクト
多様な自然環境の保全	曾根干潟環境保全の取組
市民が育む自然	自然環境に精通した人材の育成
身近に自然を感じる都市づくり	響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業
市民と自然とのふれあいの推進	里地里山の持続的な利用 ～小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクトの推進支援～
自然・生物に関する情報の整備	自然環境調査の実施とデータベースの構築



多様な生物が生息する曾根干潟（小倉南区）



市民参加で行ったためだか調査



175種の希少種を掲載（H20.3月発行）



(3) 北九州市自然環境保全ネットワークの会

同計画は、パートナーシップの考えのもと、市民、NPO、学識経験者、事業者及び市で構成された「北九州市自然環境保全ネットワークの会（通称「自然ネット」）」が、進行管理しています。自然ネットは、平成 18 年 5 月 20 日の発足以来、28 の NPO・市民団体、129 名の北九州市自然環境サポーター、11 名の学識経験者、12 の事業者の参加を得ており、会員総数は約 1,800 名です。



自然ネット総会 H19.6.2

平成 19 年度、自然ネットでは、著名人による講演会の開催（協力）等の「学習」、エコツアーの開催や応援等の「実践活動」など多岐にわたった 24 回の活動に取り組み、約 2,000 名の方が参加しました。

今後も、自然ネットを母体として同計画の推進、進行管理に当たることとしています。



エコツアー「ウォータースクール」（小倉南区河原橋にて）H19.9.2  
NPO 法人西日本環境ネットワークと協働開催

6. 響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成基本構想

(1) 背景

本市では、産業用地である若松区響灘埋立地区において、自然の創成を図り、産業と自然との共生を目指す「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成基本構想」を平成 17 年 6 月に策定しました。

本構想は、現在緑が少なく広大な空間（約 2,000 ヘクタール）が広がる響灘埋立地に、市民・NPO、団体、事業者、市が連携して、自然の創成や自然とのふれあいの場の創出などを図ることとしています。

(2) 今までの取組と成果

具体的な取組として、市民や企業の協力を得て、石峰山から響灘安瀬緑地につながる緑の軸線（公園や道路沿線の緑地）を整備する「緑の回廊づくり」と同構想全体の中核的な事業として、拠点となる緑地を整備する「緑の拠点づくり」があります。

構想策定後、「緑の回廊づくり」を進めるため、市民、事業者、行政が協力して、どんぐりの種から苗木を育てる仕組み「響・どんぐり銀行」を組織して、数年後に苗木の提供が始まる仕組みづくりを行っています。

平成 17 年度から、地元若松区の赤崎小、小石小が参加して、どんぐり拾いと苗の育成を開始し、更に、地元の企業 7 社や NPO1 団体に協力してもらい、苗の育成も始まりました。

平成 19 年度には、地元小学校 4 校が参加（18 年度深町小、19 年度江川小が追加）、更に、育苗に市民 119 名、8 事業者、3 市民センターが参加し、活動の裾野が広がってきています。



小石小学校から育苗協力企業への苗贈呈式 H19.3.1



赤崎小学校によるどんぐり拾い H19.10.10

◆響・どんぐり銀行 育苗参加企業・団体（順不同）

電源開発 (株) 若松総合事業所
(株) 光正北九州事業所
日本通運 (株) 北九州支店エコタウン営業所
佐伯建設工業 (株)
三井鉱山 (株) 北九州事業所
高野興産 (株)
西日本オートリサイクル (株)
NPO 法人北九州お元気様会
NPO 法人北九州ピオトップ・ネットワーク研究会
イオン八幡東ショッピングセンター
イオン九州 (株) ジャスコ若松店

そして、「緑の回廊づくり」の取組の一つとして、平成 18 年 3 月には、市民、NPO、団体、企業、行政が協働して、国道 495 号沿道にシイ、カシ、クヌギなど苗の植栽を行う「鳥がさえずる緑の回廊植樹会」が、九州電力（株）の創立 50 周年事業「九州ふるさとの森づくり」と併催で行われました。（200m 区間、5,000 本）

植樹会は平成 19 年度までに 3 回開催され、平成 19 年度は区間、植栽本数とも初年度の 2 倍（400m 区間、12,000 本）となりました。参加者数も約 1,000 名（初年度約 250 名）と大幅に増え、活動の裾野が広がってきています。

(3) 今後の取組

今後は、本構想に基づきに 30 万本のどんぐり苗の植樹を目標に、響・どんぐり銀行と並行して本植樹会を進めていきます。



鳥がさえずる緑の回廊 植樹会（H20.3.22）

また、「緑の拠点づくり」では、学識経験者や市民専門家などからなるワーキンググループを（7 回）開催し意見交換を重ねながら、緑地整備の基本計画を平成 17 年度に策定しました。平成 18 年度から、基本計画に基づき造成を進めています。